

資料編

資料編 駅周辺を対象とした基礎調査の結果

令和元年度に、第1期基本構想に基づく事業効果の確認及び現状把握のため、駅周辺の観光・交流スポットとしての魅力向上に向けた基礎調査を実施しました。調査の結果は次のとおりです。

1 歩行者・自転車通行量の状況

駅周辺の主要6地点の歩行者・自転車通行量と、レンタル自転車利用の状況について調査を実施しました。実施地点は次のとおりです。



出典：鳥取市中心市街地活性化基本計画（第3期）

図1 通行量調査地点及び駐車場・駐輪場位置

① 現状

- ・ 休日の通行量は、平成25年のバード・ハットのオープン以降、平成28年を除き増加傾向で回復傾向にあります。
- ・ 駅周辺の主要6地点で最も通行量が多いのは、本通り～駅前通りにかけてで、その通行量は1.5千人以上となっています。

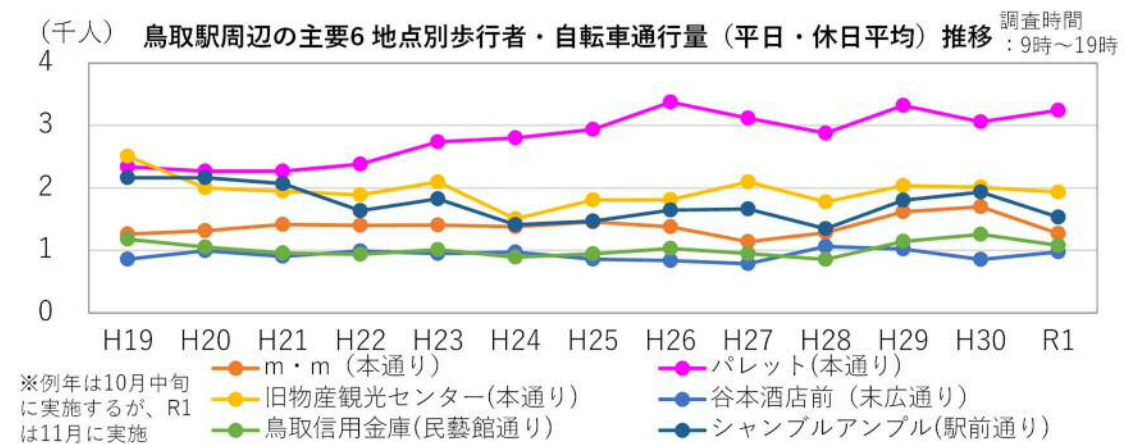
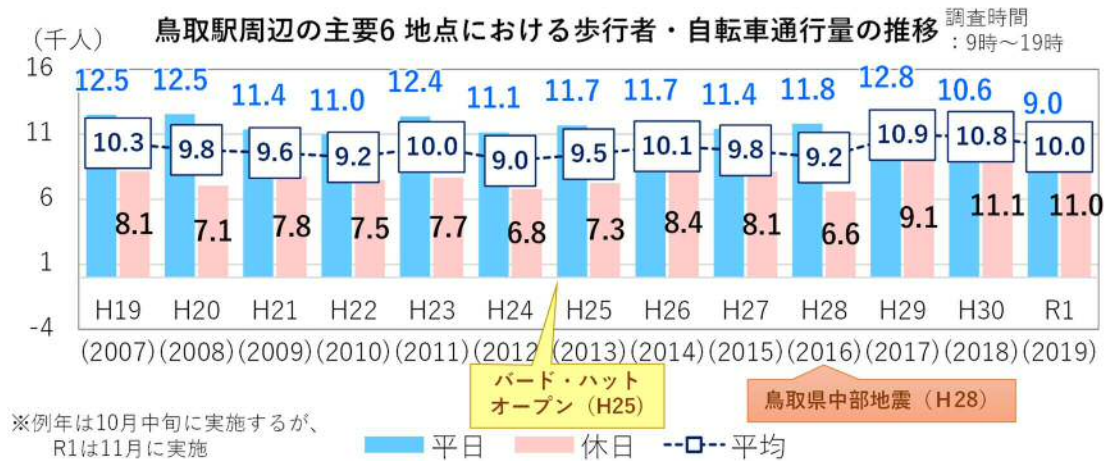


図 2 駅周辺の主要6地点における歩行者・自転車通行量

- ・ レンタル自転車利用は、順調に推移しており、観光利用が多くなっています。

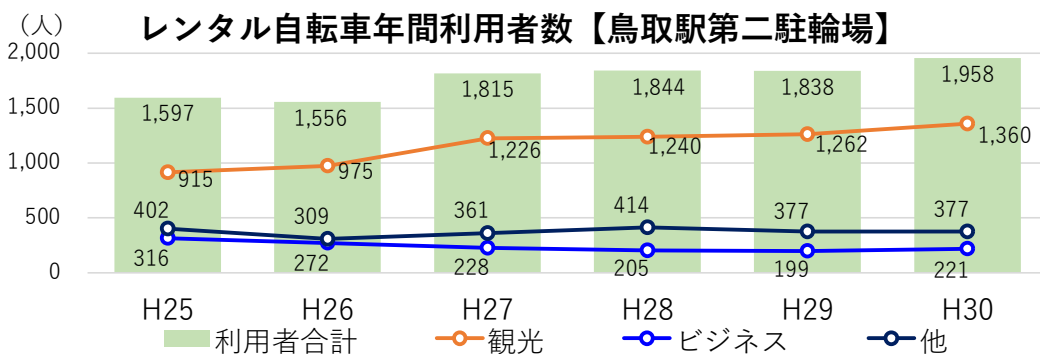


図 3 レンタル自転車年間利用者数の推移

- ・ 駅周辺には公共・民間の駐車場が多数分布しているものの、駅周辺の印象では「駐車場・駐輪場が整備されている」に対する評価は「ややそう思わない・そう思わない」が約5割を占めています。
- ・ 中心市街地の印象の悪さ上位に「駐車場不足」が挙げられています。

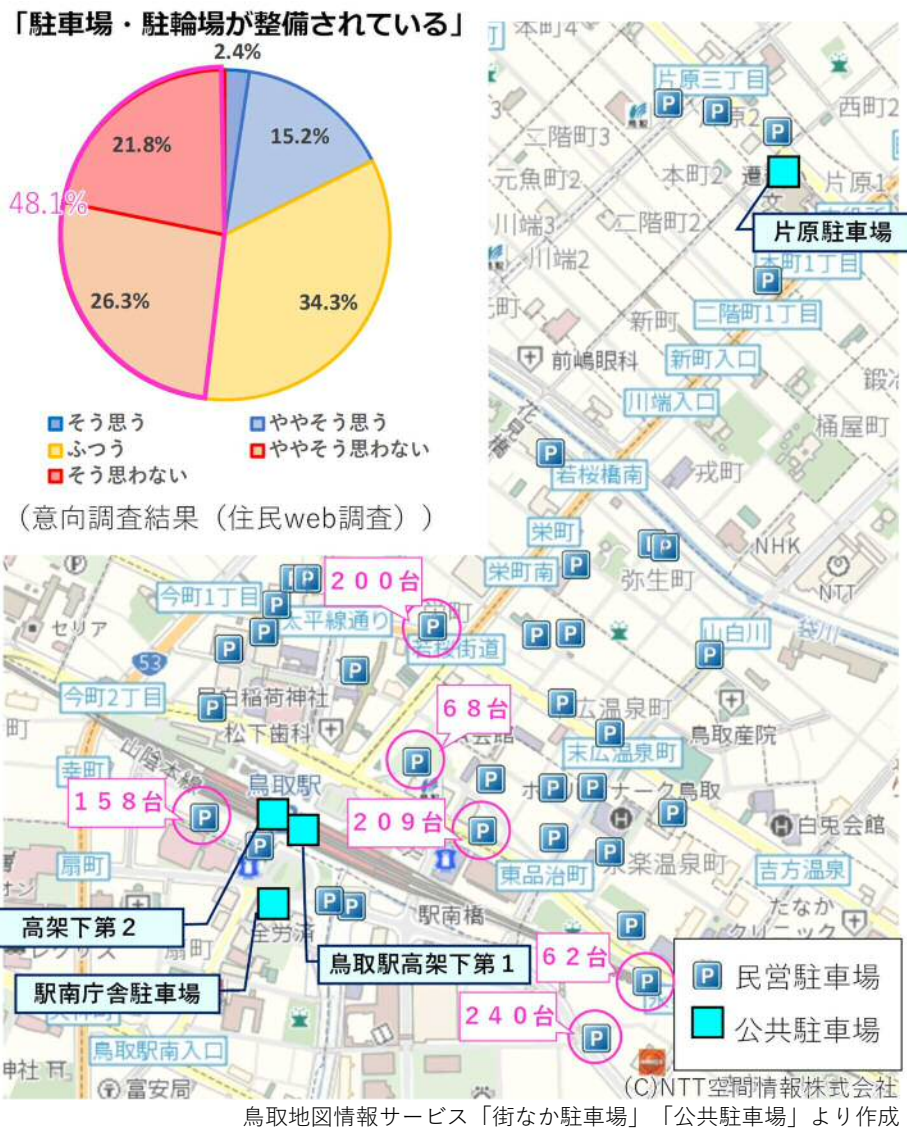


図 4 駅周辺の駐車場の状況

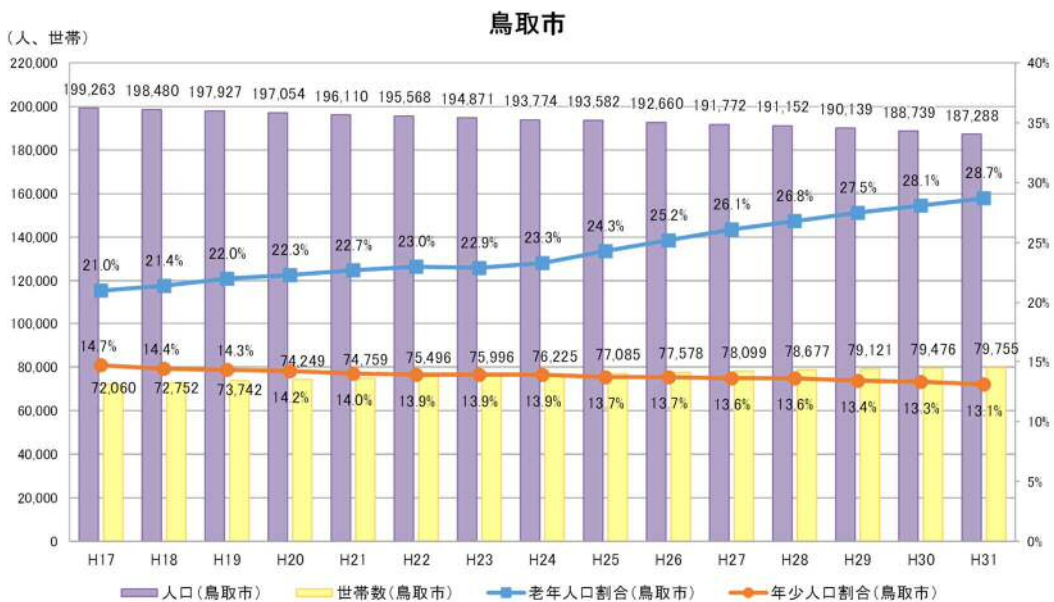
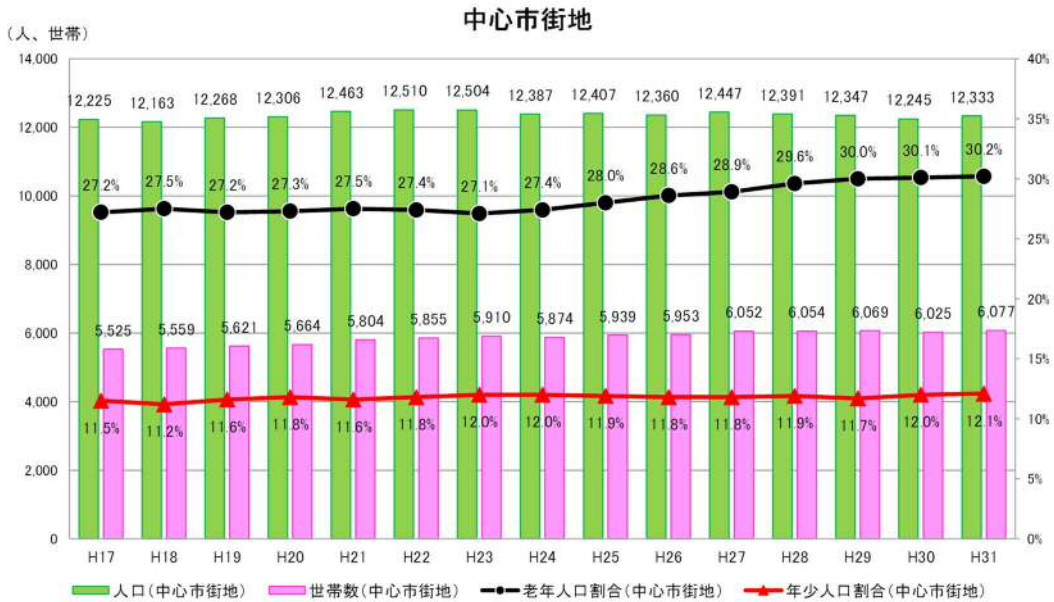
② 今後の方向性

回復傾向はみられるものの、歩行環境、利便性には課題があり、誘客策及びそれらによる回遊性向上が求められます。

2 居住人口の状況

① 現状

- ・ 中心市街地内人口は、平成23年（12,504人）から平成31年（12,333人）にかけ、ほぼ横ばい（-1.4%）で推移しています。
- ・ 一方、鳥取市総人口は、平成23年（194,871人）から平成31年（187,288人）にかけ、減少傾向（-3.9%）にあります。
- ・ 高齢人口割合は、平成23年の27.1%から平成31年の30.2%と増加しています



住民基本台帳（各年3月末現在）

図 5 中心市街地及び鳥取市の人口・高齢化率・世帯数の推移

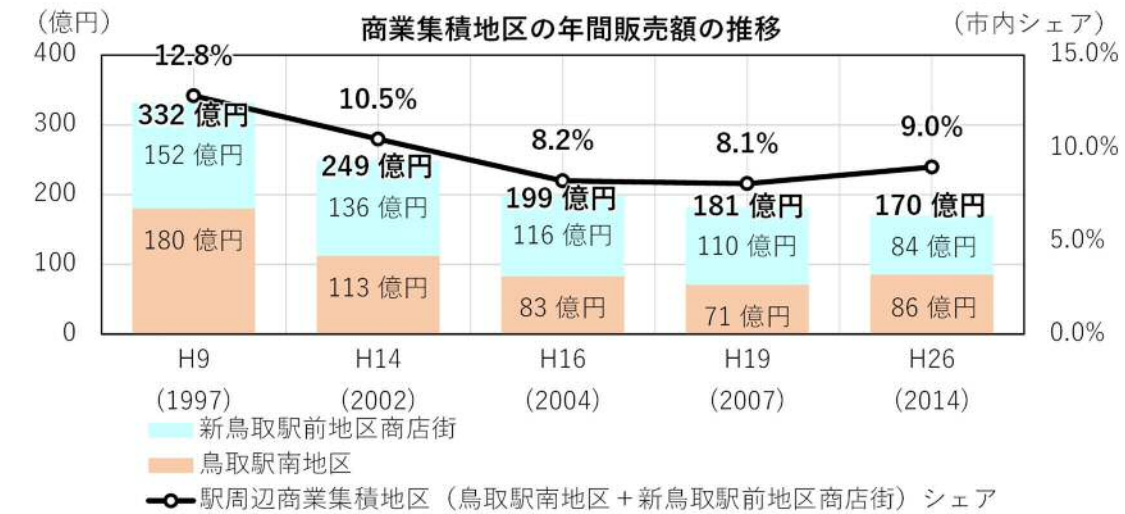
② 今後の方向性

中心市街地における居住人口は横ばいを維持しており、まちなか居住の推進のため、中心市街地の魅力向上が求められます。

3 商業の状況

① 現状

- ・年間販売額は平成19年から平成26年にかけて緩やかに減少しています。



(参考) 市全体の年間商品販売額 (百万円)

	H9(1997)	H14(2002)	H16(2004)	H19(2007)	H26(2014)
市全体 (百万円)	258,938	237,496	241,596	223,513	189,174

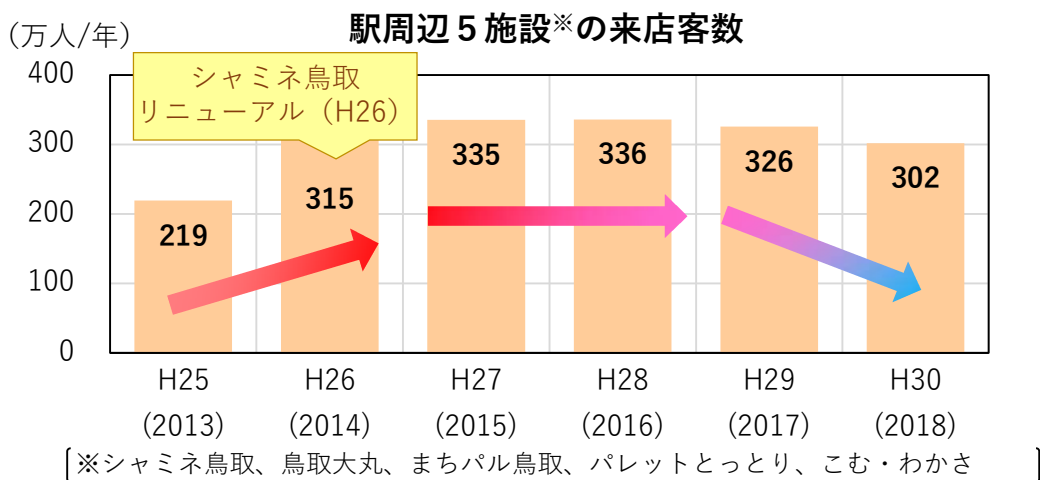
(参考) 新鳥取駅前地区・鳥取駅南地区商店街の事業所数 (所)

	H9(1997)	H14(2002)	H16(2004)	H19(2007)	H26(2014)
鳥取駅南地区	67	59	50	36	36
新鳥取駅前地区商店街	25	26	27	19	32
合計	92	85	77	55	68

図 6 商業集積地区の年間販売額の推移

出典：各年商業統計調査 (経済産業省)

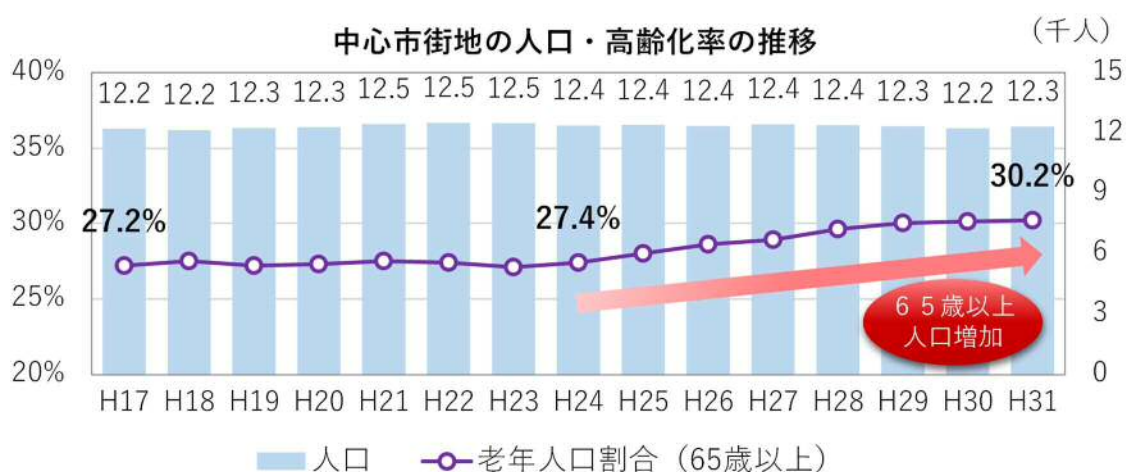
- ・中心市街地内商業施設の客足の伸び悩みの傾向にあります。



出典：鳥取市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

図 7 中心市街地内の主な商業施設の来店客数の推移

- ・空き店舗数は平成17年から平成31年までに4商店街で増加し、10年前の水準で高止まりが続いています。
- ・また、中心市街地の人口は、近年では12千人程度を維持しているものの、高齢化率がしだいに高まってきています。



出典：鳥取市中心市街地活性化基本計画関連データ集（人口は、各年3月末現在）

図 8 中心市街地における空き店舗数の推移と高齢化率の推移

② 今後の方向性

全国的にも無店舗販売の拡大に伴い、百貨店や商店街の売上が減少している中で、当該エリアの年間商品販売額は緩やかな減少・空き店舗数同水準を維持している状況です。今後は、イベントやアミューズメント機能等の充実による商業施設への誘客が求められます。

4 地価の状況

① 現状

- ・地価は、全体的に下落傾向にあり、特に駅前エリアは平成23年から平成31年までに6.3万円/㎡ (-32%)の下落となっており、下落の傾向が続いています。
- ・DID内人口、駅周辺地価ともに減少傾向がみられます。

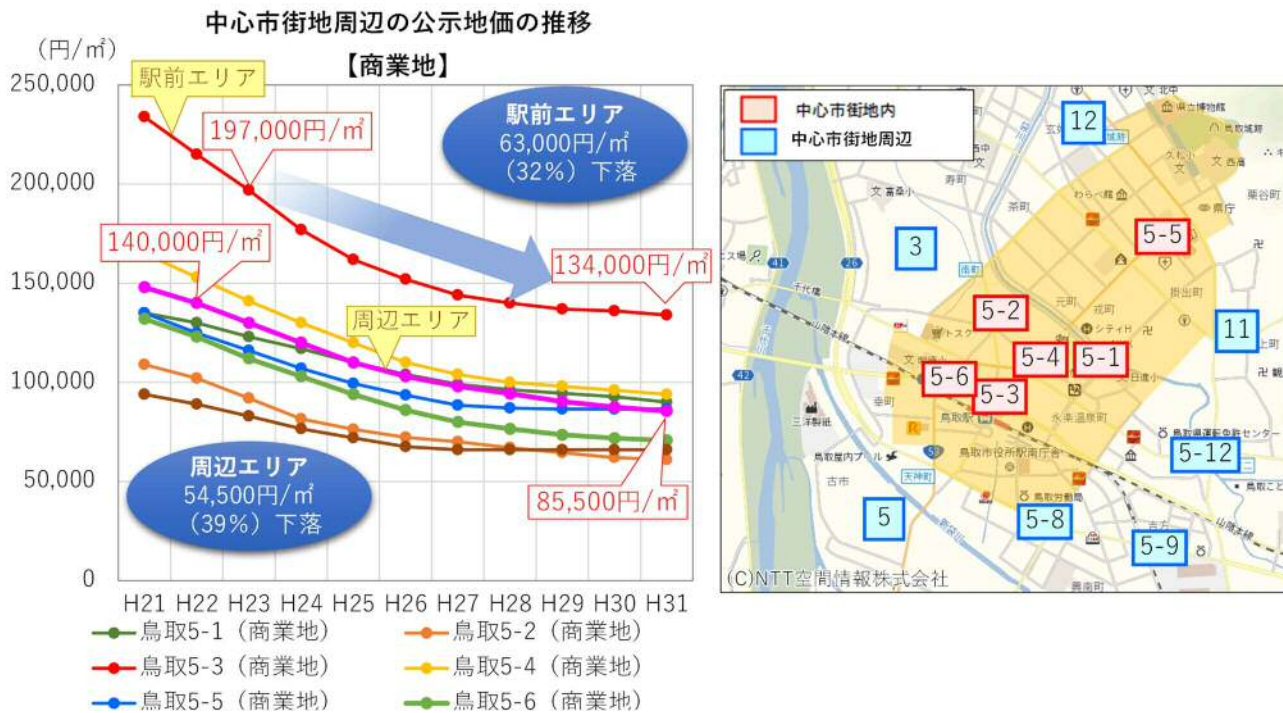
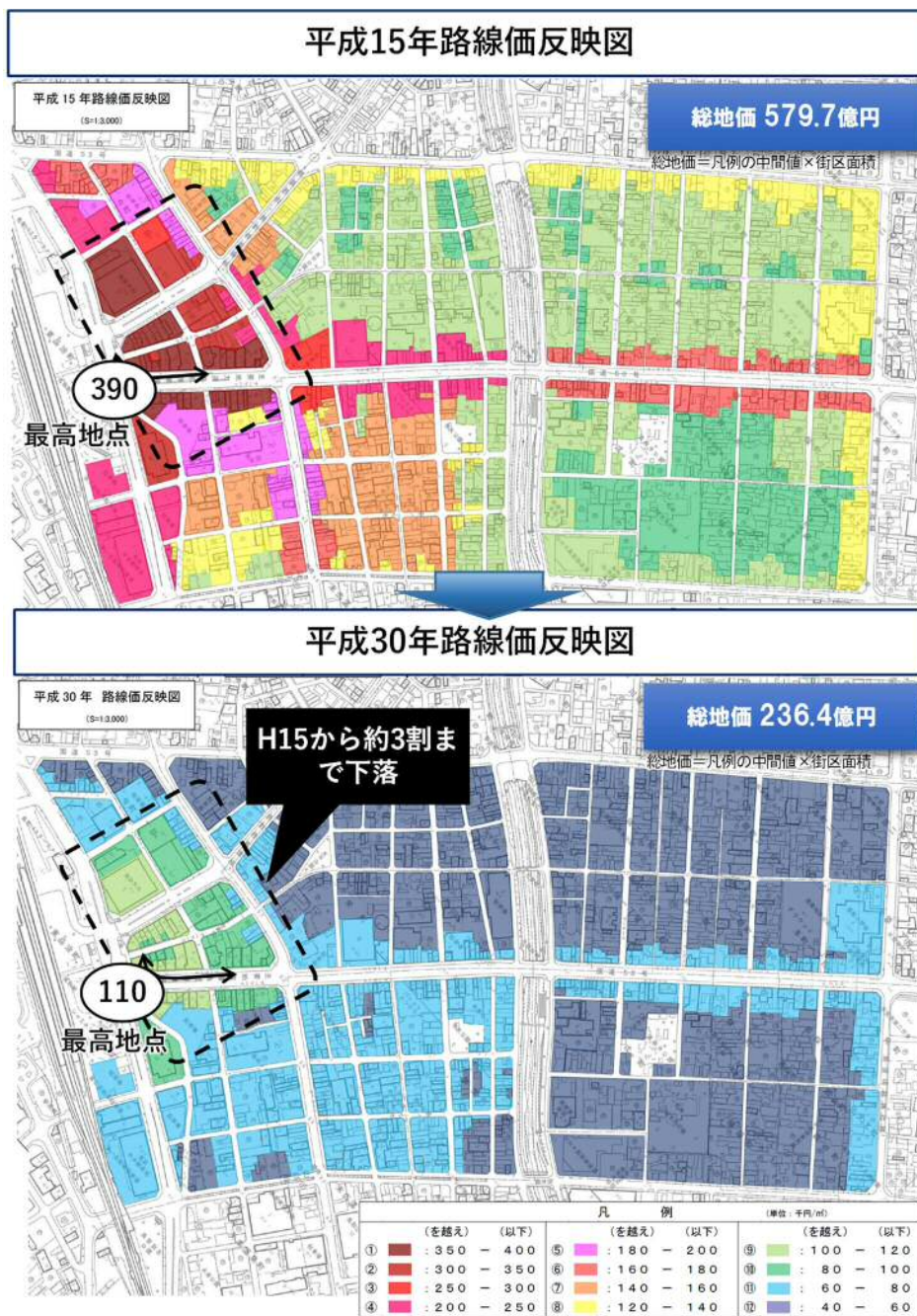


図 9 中心市街地における地価の推移

- ・路線価の高い駅前のエリアでは、平成25年から平成30年の間で約2割下落となっており、総地価は平成15年から平成30年までに約4割まで下落しています。



出典：財産評価基準書（国税庁）、鳥取市中心市街地活性化基本計画関連データ集

図 10 中心市街地における路線価

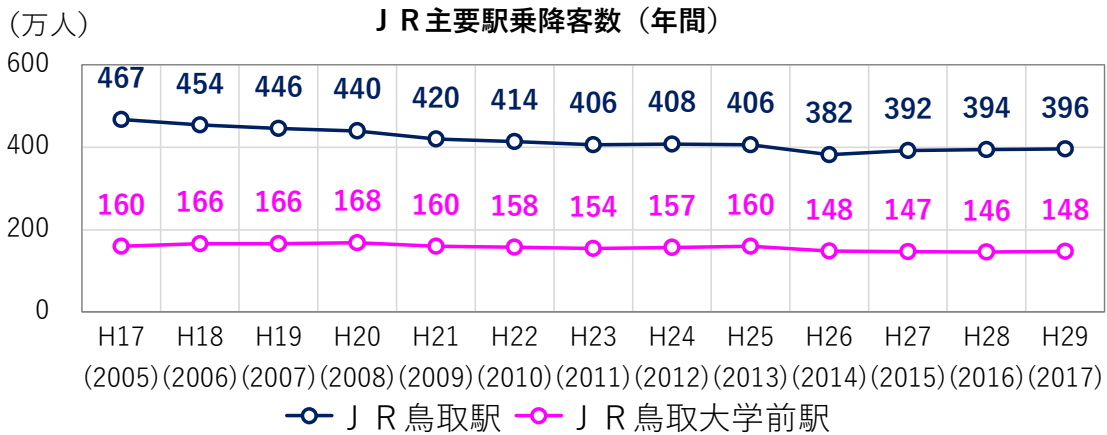
② 今後の方向性

地域経済の活性化やまちの魅力向上による、不動産取引の活性化（地価上昇）が求められます。

5 鳥取駅及び鳥取バスターミナル乗降人員の状況

① 現状

- ・鳥取駅乗降人員は、平成17年から平成23年までは減少傾向にあったものの、平成23年（406万人）から平成31年（396万人）にかけほぼ横ばい（-2.5%）で推移しています。



出典：鳥取市中心市街地活性化基本計画関連データ集（各年3月末現在）、鳥取市市勢要覧

図 1 1 JR主要駅乗降客数（年間）の推移

- ・コミュニティバス「くる梨」の利用者数は、本格運行された平成15年以降、利用者数は増加傾向にあります。

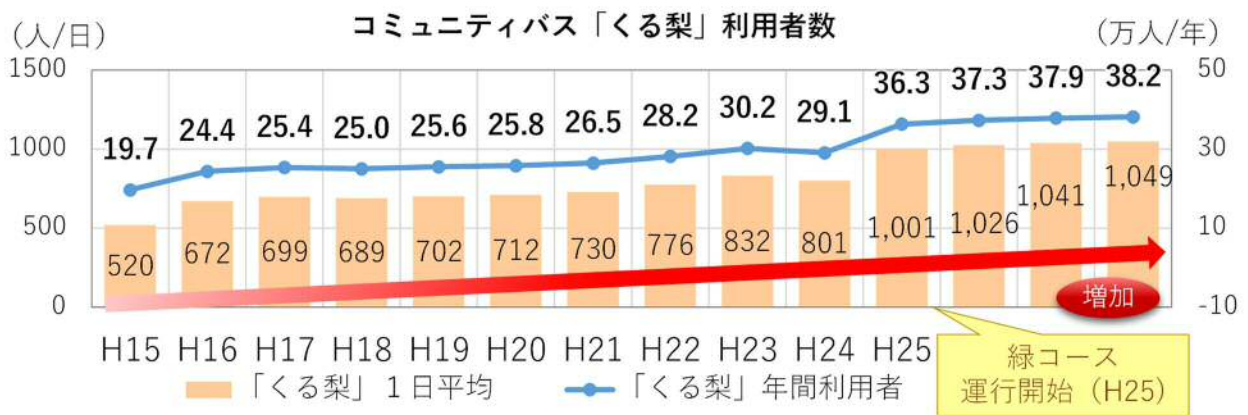


図 1 2 コミュニティバス「くる梨」利用者数の推移

② 今後の方向性

鳥取駅利用者は横ばいを維持しており、今後は、公共交通の充実、ターミナル機能の充実が求められます。